

NATO IMS GENAD 室主催 WPS セミナー紹介

——マルチ・ドメイン作戦とジェンダー視点・分析

特別研究官（国際交流・図書）付 岩田 英子

はじめに

NATO は軍事作戦における WPS 履行に関して一番進んでいると言っても過言ではない。NATO は WPS 履行のためにジェンダー視点・分析を軍事作戦に取り入れることを積極的に進めている。その活動の一環として、NATO 軍事幕僚部（以下、IMS）ジェンダー・アドバイザー（以下、GENAD）室が毎月 1 回、WPS に関する NATO Deep Dive セミナーをオンラインで開いている。この概要は NATOHP においても紹介されており、オープン・ソースである。

本コメンタリーでは、本年 7 月 24 日（水）にウェビナーで催された NATO IMS GENAD 室主催 Deep Dive セミナーの概要を紹介する。軍事作戦におけるジェンダー視点・分析を取り入れることに関する議論に触れることで、軍隊における WPS 履行が意味することを考える契機となれば幸いである。

かつての軍隊における WPS 履行

まずは、従来の NATO における WPS 履行がどのようなものであったかについて軽く触れたい。

そもそも軍隊が WPS 履行するきっかけは、国連の平和維持活動（以下、PKO）がジェンダーを専門とする要員を必要としたことに合った。それは、PKO 要員による派遣地域での性的暴力・性的搾取等の防止のため、また、PKO 参加中に PKO 要員が派遣地域の住民に対してジェンダー視点を普及させるため、PKO 要員に対するジェンダー視点の教育が必要とされた。

その一方、いわゆる性的暴力が多発することは派遣地域の治安が悪化していることを判断する一つの指標となるため、そういう意味で、ジェンダー分析でもって性的暴力が生じることを事前に察知するこ

とは派遣地域の治安維持のためには欠かせない活動でもあった。

では、NATO での WPS 履行がどのようなものであったかという点、それは、国連の取組みを踏まえつつ、ジェンダー教育・訓練の充実を図っていくというものであった。

NATO では、NATO 主導のアフガニスタンでの国際安定化作戦（ISAF）の経験等から、軍事作戦におけるジェンダー視点・分析の意義が認識されてきた。当初は「女性性」が地元民のハートとマインドを掌握するのに役立つという観点から、展開地域の状況認識や情報収集等のツールとしてのジェンダー視点・分析を習得するための教育訓練であった。そのため、女性要因に対してジェンダー視点・分析を教育して GENAD やジェンダー・フォーカル・ポイント（以下、GFP）として配置・指定するという方針であったが、WPS 履行に多様性の視点が加味されるようになり、男女を問わない誰もがジェンダー視点・分析の教育を受けるようになった。

NATO におけるジェンダー視点・分析の教育訓練は、まず①NATO 主導作戦等への派遣要員（NATO の作戦レベル）、次いで②NATO 関連組織の全職員（NATO の戦略レベル）、そして③NATO 加盟国／関係国の軍や国防省等の職員（加盟国／関係国の本国レベル）へと、その対象は拡大した。

同時に NATO では、各種教育課程や教材等の開発も進められた。NATO の行う全ての教育・訓練にジェンダーの要素を反映すべく取組まれ、教育面では、政策決定者や将軍級のリーダーシップ層を対象とした「キーリーダーズ・セミナー」や、NATO 主導作戦や NATO の戦略コマンド等で直接指揮官を補佐する GENAD 課程等が充実された。訓練面では、NATO の年次訓練である「危機管理演習」において、2014 年に初めて訓練シナリオに性的暴力が盛り込まれた実績があった。さらに、NATO 加盟国・パートナー国のみならず、ネットにアクセスできるすべての人向けのオープン・ソースでのジェンダー教材に関して、NATO の変革連合軍（以下、ACT）が情報公開している。

NATO IMS GENAD 室主催の Deep Dive セッション

NATO IMS GENAD 室はほぼ月に 1 回もしくは 2 回の頻度で、WPS に関するセッションを開いて、ジェンダー視点・分析に関する理解を深めるとともにその普及を試みている。例えば、今年 1 月 17 日に開かれた同セッションはバルカン半島を事例にジェンダー視点・分析がどのようになされているのかについて、軍人及びシビリアンが発表した。この概要は以下のリンクをクリックすれば知ることができる。

https://www.nato.int/cps/en/natohq/news_222406.htm

7 月 24 日の IMS GENAD 室主催の Deep Dive セッションの紹介

1. 概要

7 月 24 日の IMS GENAD 室主催の Deep Dive セッションのテーマは、マルチ・ドメイン作戦（以下、MDO）でのジェンダー視点・分析の取り入れ方に関するものであった。

軍事計画におけるジェンダー視点・分析の統合について議論され、相互運用性、状況認識の向上、データに基づく意思決定の必要性が強調された。発表者は 2 名で 1 名は ACT で GFP として指定されている軍人（男性）、もう 1 人は軍事作戦におけるジェンダーに関する北欧センタ（以下、NCGM）で法務官として勤務しているシビリアンの研究者であった。両名は、複雑な環境を理解し、意思決定を支援する上でのジェンダー視点・分析を踏まえた認識の重要性を強調した上で、NATO が MDO においてサイバーと宇宙を完全な作戦領域として統合することについても、意思決定のためのデータ所有、フィルタリング、分析に焦点を当てて議論していた。MDO を支援するために現在の指揮統制システム体制に、ジェンダー視点・分析を適応させる必要性についても言及した。

2. 発表内容のポイント

MDO とジェンダー視点・分析の統合に関する発表のポイントは以下の点である。

- * MDO の実施をより明確にするため、引き続き重点分野を追求すること
- * ジェンダー分析、外部の利害関係者との協力、効果に基づく活動などを視野に入れながら、NATO における WPS 履行をさらに発展させること
- * 軍事作戦におけるジェンダー視点・分析とは、性・年齢別データ（sex and age-disaggregated data）に基づくこと

3. 発表の詳細

ア. 講演者 1（ACT の GFP）

- * ACT の GFP は、MOD とジェンダー視点・分析について紹介し、その相互関連性を強調していた。

* NATO の MDO コンセプトの概要を説明し、NATO 共同アプローチとの違いを強調していた。

- ・ 個人の力と MDO の統合について論じ、軍事作戦におけるジェンダーの統合の重要性を強調
- ・ 軍事と非軍事の能力を統合し、作戦を有利に進めるという
- ・ 軍事作戦におけるスピードと敏捷性を強調
- ・ サイバーと空間を NATO の軍事作戦に統合
- ・ MDO において物理的、仮想的、認知的な領域にわたる収束効果を達成するための協力の重要性を強調

* ジェンダー視点・分析を NATO の軍事ドクトリンに統合する試みを開始していた。

- ・ データ・フュージョンとターゲティング、指揮統制システムの適応を含む MDO 実施のための 7 つの優先事項（マルチ・ドメイン・シンクロへの支援、マルチ・ドメイン意思決定への支援、マルチ・ドメイン・データ統合、マルチ・ドメインの目標化、宇宙空間の領域の作戦化、サイバー領域の作戦化）を強調
- ・ MDO の運営委員会とコアチームが設立され、取り組みの主流化とまとめ、意識の向上、MDO 要件の推進を企図
- ・ MDO におけるジェンダーの視点の重要性を強調し、複雑な環境の理解と意思決定における利点を挙げる。
- ・ フィンランド軍のトミー・ハプラー大佐とイギリス空軍のバーナビー・ジョーンズ中佐が指導する、ジェンダー視点・分析を NATO の軍事ドクトリンに統合する MDO 訓練課程 ADL374 は注目できると紹介

イ. 講演者 2 (NCGM の法務官)

NCGM の法務官は、MDO とジェンダー視点・分析の統合について、両者の整合性を保った上で実施することに現在取り組んでいることを強調した。

* MDO とジェンダー視点・分析の統合

- ・ NATO は、任務、作戦及び活動というすべてのいとなみにジェンダー視点・分析を統合することが、NATO 任務の成功と NATO 作戦の有効性に寄与すると認識している。

- ・ジェンダーの視点の実施には、すべての領域、レベル、機能におけるリーダーシップ、GENAD 及び GEP を備えた NATO の体制を制度化する必要性有り
- ・データ中心の MDO は、収斂効果を生み出すために外部の利害関係者（市民社会組織・国際機関）との協力の必要性有り
- ・軍事作戦におけるジェンダー視点・分析を MDO に統合するためには、データ主導の意思決定が肝要である。リーダーやセクション・チーフたちの思い付きや過去の経験からではなく、あくまでもデータに基づくことが重要
- ・軍事作戦におけるジェンダー視点・分析を MDO に統合するのに不可欠なデータ主導のアプローチを徹底
- ・MDO における十分な情報に基づく意思決定には、性・年齢別データが不可欠

4. 司会者・ファシリテーターによる総括

質疑応答の前に 2 名の発表内容に関して、司会者及びファシリテーターとして NATO IMS GENAD 室の 2 名が、特に、2 番目の NCGM 法務官の発表内容に関して以下のように総括した。

*現代の戦争、特に非軍事的な状況における性・年齢別データの特定、及び、そうしたデータの分析は課題が多い。つまり、作戦計画や早期警戒指標にジェンダー視点・分析を統合するために、性・年齢別データをどのように実施するのかについては、非軍事的な状況であろうとも、軍隊にとってはなじみがないということである。

おわりに

今回のテーマは、MDO とジェンダー視点・分析との統合の仕方であった。これは、現在 MDO が盛んに取りざたされているため、時宜にかなったものであった。しかし、司会者・ファシリテーターの総括にもあったように、作戦計画や早期警戒指標にジェンダー視点及び分析を統合するために、データ収集及び分析がどのように実施されているのかについては、発表者 2 名からの明確な回答がなかったことから、今後のさらなる検討が必要であると考えられる。

他方で、NCGM 法務官からは、現在検討中であるものの、軍事任務における性・年齢別データの収集及び分析は、これから益々必要性が高まると考えられるため、進展してくであろうし、NATO の人的地形分析（human terrain analysis）において、GENAD が重要な役割を果たすことが述べられた。

NATO における性・年齢別データに基づく意思決定による MDO アプローチも含めて、MOD とジェンダー視点及び分析との統合については、今後の成り行きが注目される。

PROFILE

岩田 英子

特別研究官（国際交流・図書）付

専門分野：女性と安全保障、軍隊での WPS 等

本欄における見解は、防衛研究所を代表するものではありません。
NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。
ただし記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

直 通：03-3260-3011

代 表：03-3268-3111（内線 29177）

防衛研究所 Web サイト：www.nids.mod.go.jp